



2020年 東京オリンピック・パラリンピック

たまい小児科 院長 玉井友治



2020年の第32回夏季オリンピック・パラリンピック大会の開催都市を選ぶIOC総会がブエノスアイレスで開かれ、9月7日(日本時間8日)IOC委員の投票で、東京がイスタンブール、マドリードを大差で破り、開催を決めました。東京での開催は1964年の第18回大会以来56年ぶりとなり、2度目の開催はアジア初、冬季大会も含めると、日本でのオリンピックは72年札幌、98年長野とあわせて4度目という快挙です。

8日の早朝、テレビで生中継された発表を、ドキドキしながら待った方もいらっしゃると思います。「トーキョー」と読み上げられた瞬間、日本中が歓喜に沸き、笑顔や喜びの涙が見られ、7年後のオリンピックを心待ちにする声があちらこちらで聞かれました。「7年後に自分は何歳になっているかなあ〜。」と考えた方も多いのではないのでしょうか。本当に楽しみで待ち遠しいですし、素晴らしい大会になんてなっていてほしいと願っています。

ところで、今回の東京勝利のカギを握ったのが、プレゼンテーションであったと言われていいます。本当に心に迫る、まるで自分がその場にいるかのような臨場感と心の琴線に触れる素晴らしいスピーチでした。なかでも、プレゼンテーションのトップバッターであったパラリンピック女子走り幅跳び代表佐藤真海さんのスピーチが絶賛されています。

ここで、彼女が英語で行ったスピーチの日本語訳をご紹介します。

会長、そしてIOC委員の皆様。佐藤真海です。

私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。スポーツは私に人生で大切な価値を教えてくださいました。それは、2020年東京大会が世界に広めようと決意している価値です。本日は、そのグローバル・ビジョンについてご説明いたします。

19歳のときに私の人生は一変しました。私は陸上選手で、水泳もしていました。また、チアリーダーでもありました。そして、初めて足首に痛みを感じてから、たった数週間のうちに骨肉種により足を失ってしまいました。もちろん、それは過酷なことで、絶望の淵に沈みました。でもそれは大学に戻り、陸上に取り組むまでのことでした。

私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして何より、私にとって大切なのは、私が持っているものであって、私が失ったものではないということ学びました。

私はアテネと北京のパラリンピック大会に出場しました。スポーツの力に感動させられた私は、恵まれていると感じました。2012年ロンドン大会も楽しみにしていました。

しかし、2011年3月11日、津波が私の故郷の町を襲いました。6日もの間、私は自分の家族がまだ無事でいるかどうかわかりませんでした。そして家族を見つけ出したとき、自分の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにもなりません。私はいろいろな学校からメッセージを集めて故郷に持ち帰り、私自身の経験を人々に話しました。食糧も持って行きました。ほかのアスリートたちも同じことをしました。私達は一緒になってスポーツ活動を準備して、自信を取り戻すお手伝いをしました。そのとき初めて、私はスポーツの真の力を目の当たりにしたのです。

新たな夢と笑顔を育む力。希望をもたらす力。人々を結びつける力。200人を超えるアスリートたちが、日本そして世界から、被災地におよそ1000回も足を運びながら、5万人以上の子どもたちをインスパイアしています。

私達が目にしたのは、かつて日本では見られなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。そして、日本が目の当たりにしたのは、これらの貴重な価値、卓越、友情、尊敬が、言葉以上の大きな力をもつということです。

彼女は宮城県気仙沼市出身で、実家は震災の被害に遭いました。病気による右足の切断、故郷の被災という困難を経験しながらも、それを乗り越えるべく、自身が経験し、目の当たりにした「スポーツの力」を訴えました。スピーチ、そして彼女の表情・笑顔、どれもが印象に残るとても素敵なものでした。

次回2016年のブラジル・リオデジャネイロで開催されるオリンピック・パラリンピックも、日本国民一丸となって出場選手を応援しましょう！



◎ 季節性インフルエンザワクチンの予約開始

昨年、前半はA香港型、後半はB型が流行しました。インフルエンザは、肺炎、脳炎など、重症化して命の危険にさらされることがありますが、ワクチン接種によって重症化を回避できることが証明されています。季節性インフル・ワクチンは、数多くあるワクチンの中でも、最も効果と安全性の高いワクチンのひとつです。是非、接種しましょう。

当院では、9月17日(火)より、季節性インフルエンザワクチン接種の予約受付を開始します。ワクチン接種は、10月1日(火)から開始します。

毎週月曜日・金曜日は16時～17時、毎週火曜日・木曜日は17時～18時、インフルエンザ接種専用時間を設けて接種します。1日の接種人数には制限があります。

定期通院中の患者さんは、定期受診時の接種も可能ですが、事前予約をお願いします。また、他のワクチン接種時に同時接種することも可能ですので、お問い合わせください。

抗体獲得には2ヶ月程度かかり、抗体は6ヶ月以上持続します。例年12月には流行が始まりますので、10月中には接種を開始して、12月中には接種を終了しましょう。毎年12月になるとワクチンの供給量不足が問題になりますので、できる限り早く接種して下さい。

当院での金額は、1回 3,500円です。

接種回数は、中学生以上は原則1回、小学生以下は、2～4週間隔で2回です。

◎ ロタウィルスワクチンの効果

2011年11月末にロタウィルスワクチンの接種が開始されてから、もうすぐ2年が経とうとしています。毎年、嘔吐下痢症の流行期に入ると、多くの乳幼児が頻回の下痢嘔吐により脱水を起こして入院しますが、昨年冬から入院する小児の特徴に変化がみられています。

全国の小児救急病院からの報告では、嘔吐下痢症で入院した小児は、ワクチン接種ができなかった年齢層の年長児とワクチン接種しなかった乳幼児が大変を占めており、嘔吐下痢症による脱水症での乳児死亡例は数例で、すべてワクチン接種していない児でした。

以上からもわかるように、日本でも、ロタウィルスワクチン接種の効果が証明されつつあります。任意接種で有料ですが、非常に有効なワクチンですので接種しましょう。

◎ 秋は喘息が悪くなる季節です！

秋は喘息が増悪する季節です。喘息の児は、ゼーゼー・ヒューヒューの出現、長引く咳や咳込みに注意しましょう。1日の気温差(最高気温と最低気温の差)が10℃を超える日、最低気温が20℃を下回る日、低気圧が通る(雨が降る)日やその翌日は要注意です。ダニの死骸が急に増えるために、喘息発作が起こりやすくなるのです。

音楽療法士 おすすめの 今月の歌

音楽療法士 玉井さちこ



♪ 今月の一曲は、みなさんおなじみの曲「It's a small world」です。人々が笑顔で手をつなぐ平和な世界を歌った曲です。東京オリンピック・パラリンピック招致が決まり、これからも日本が世界に向けて平和を発信できますように。♪

「小さな世界 ～It's a small world～」

世界中どこだって 笑いあり涙あり みんなそれぞれ助けあう 小さな世界
世界はせまい 世界は同じ 世界はまるい ただひとつ

世界中どこだって ほほえめば仲良しさ みんな輪になり手をつなごう 小さな世界
世界はせまい 世界は同じ 世界はまるい ただひとつ

● 9月・10月・11月の診療予定と休診情報 ●

- * 9月24日(火)の夜間は、院長が**大分市小児夜間急患センターに出務**して診療します。
- * 10月1日(火)より、季節性インフルエンザワクチンの接種を開始します。
- * 10月10日(木)の一般診療は、院長所用のため、**16時まで**とさせていただきます。
- * 10月12日(土)は、学会出張のため、**臨時休診**させていただきます。
- * 10月22日(火)の夜間は、院長が**大分市小児夜間急患センターに出務**して診療します。
- * **11月4日(月・祝)**は休日当番医ですので、8時30分から17時まで診療します。